

学校給食センター アレルギー対応食は3%(200食) センターでも現在の小学校給食と同じ水準での実施を

7月12日に行われた、市議会文教福祉常任委員会で、中学校給食を提供する学校給食センターについて報告がありました。

市教委は、学校給食センターについての「実施計画」「要求水準書(案)」を2023年5月に策定しましたが、議会へも保護者へも説明をしてこず、6月末には事業者

に「要求水準書」「募集要項」を示すとしていました。

今回の委員会で、市教委は、6月30日に「募集要項」「要求水準書」等を公表し、事業者募集を開始したこと。合わせて、給食提供開始を26年度早期から、26年4月に変更。また、アレルギー対応食の記載の変更を行ったと説明しました。

党議員「命に関わる問題。実態を掴み取組を」

市教委が示した要求水準書には、アレルギー対応について「食物アレルギー対応食は調理食数(6,000食)の3%程度(200食程度)」と示されています。

日本学校保健会「令和4年度アレルギー疾患に関する調査報告書」では、全国

の公立小・中・高・特別支援・義務教育・中等教育学校にアンケート調査を行い25,466校が回答。結果は下表の通り、全体で6.3%。報告書では、2004年度結果が2.6%、2013年度結果は4.5%であり調査の度に増加を続けています。

日本学校保健会による「アレルギー疾患に関する調査」の結果より抜粋

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	義務教育学校	中等教育学校	全体
食物アレルギー	6.1%	6.7%	6.6%	7.0%	6.1%	7.5%	6.3%

党議員は「全国77%が回答しているが宇治市は回答したのか。この調査では、(全体で)6.3%とされているが、宇治市は3%とあまりにも差が大きい。市の回答結果はどうだったのか」と追及。教育部長は「市教委として各学校でどのように回答されたかは、現在のところ把握できていない」と答弁。この状況に対して、党議員は「命に係わる問題なので、実態の把握をして取り組みを進めるべき」と指摘しました。

給食センター事業は、保護者への説明がないまま、アレルギー対応も不安が解消されず、献立もこれから検討するとしています。さらに、西小倉地域の小中一貫校の小学校を初めとして、小学校への提供もしようとするなど問題です。

党議員団は、児童生徒の命に係わる問題であり、保護者への説明を尽くすとともに、万全の体制で事業を行い小学校給食と同じ水準にすべきと改善を求めています。

2023年7月17日号の議員団だよりの「天ヶ瀬ダムの補強記事」について

8行目 「天ヶ瀬ダム捜査状況(時系列)」は「天ヶ瀬ダム操作状況(時系列)」

10行目 「5月9日14時：『洗堰前回放流』」は「5月8日14時：『洗堰全開放流』」の誤りでしたので、訂正させていただきます。

日本共産党
宇治市会議員団

議員団だよりの2023年7月23日号

宇治市宇治琵琶33宇治市役所内

TEL: 0774-22-3141 FAX: 0774-24-7884

ご意見・
ご相談は
こちらへ→

